

## 心の旅「鎮魂と平和」

— 2021 年度に卒業される皆さまへ —

長谷川（間瀬）恵美



2011 年から開始された唐丹希望基金、最初の 3 年間「唐丹ルチア祭」を続けさせていただけたことを心から感謝しています。卒業、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

10 年前、東京駅を早朝に発って盛岡の駅で高館千枝子さんに車でピックアップしてもらい、震災直後の唐丹小・中学校を訪ねました。上級生の生徒さんが、下を向いて黙々とほうきでお掃除をしていたことを思い出します。



校舎の窓から見えた青い海の美しさと静けさ。校長先生は、ガラスが割れ、天井が落ちた校舎をゆっくり歩きながらおっしゃいました。「音楽家やお笑い芸人の依頼はすべて断っている、笑いは一時的なものだから...。」その言葉は今も心に残っています。



そして、校長先生は「魂の癒し、スピリチュアルケアとしての音楽と祈り」についてご理解を示してくださり、私たちの慰問を承諾してくださいました。

わたしと千枝子さんは北欧（スウェーデン）で出会いました。北欧で、12 月 13 日はサンタルチア祭。寒くて暗い冬の朝、聖ルチアが明るい光（希望の光）を手に南から訪れます。

千枝子さんは、私とキャロルの慰問を「唐丹サンタルチア」と名付けてくださいました。キャロルは日本で唯一の音楽死生学士（Music Thanatologist）です。彼女のハープと歌声は、一人ひとりの悲しみ・祈りに寄り添います。



一年目は約40分、こどもたちの涙とすすり泣きのうちにハープと歌声が響きました。

二年目は約30分位、祈りに加えてお坊様が読経をしてくださいました。

三年目は約20分位、その後、はじめて子供たちが歌を歌ってくれました。



子どもたちの歌声に、どれだけ慰問に行った私たちが元気をいただいたことでしょう。

明るく力強い子供たちの歌声に「生きる力・希望・勇気」を見せていただきました。

私たちのお役は終わったと思った瞬間でした。



その後も、たくさんの困難を乗り越えて、みなさんは力強く歩んでいらっしゃいます。

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを・・・」祈っています。



みなさんとまたどこかでお会いできることを心から楽しみにしています。

最後に、私がいつも勇気づけられている言葉をお送りしますね。

“Believe in what you do, Do what you believe in.”

EMH

\*\*\*\*\*

Emi Mase-Hasegawa, Th. D.

長谷川（間瀬）恵美、博士（神学）

桜美林大学 LA 学群 人文領域宗教学プログラム主任

---

### 長谷川（間瀬）恵美さん唐丹訪問：URL

- ・「リラ・プレカリア と プレイヤージュール・ミストリー」へのお誘い：[E E C \(plala.or.jp\)](http://plala.or.jp)
- ・2011年7月唐丹中学校訪問：[E E C \(plala.or.jp\)](http://plala.or.jp)
- ・藤館茂校長と生徒たちのメッセージ：[E E C \(plala.or.jp\)](http://plala.or.jp)
- ・2012年12月13日：[EEC 通信 33号 \(plala.or.jp\)](http://plala.or.jp)
- ・サンタルチア祭写真集：[2012年12月13日\(唐丹サンタルチア\) \(plala.or.jp\)](http://plala.or.jp)

唐丹中学校三年生の皆様

卒業おめでとうございます！

キャロル サック(東京都三鷹市)



【2013年12月13日唐丹サンタルチア祭のルチア達】



人生の中の大切な境に向かって、たくさんの意味深い希望がありますように心から祈ります！皆さんが私のことを覚えているかどうかは分かりませんが、私は皆さんのことを決して忘れることはできません。皆さんは知らないかもしれませんが、皆さんは私の今までの71年間の人生の中で最も大切な関係を作ってくださいしています。



【1955/キャロル サック5歳】

私はスウェーデンの3世のアメリカ人です。おばあちゃんおじいちゃん4人ともスウェーデンで生まれて、1900年頃アメリカのミネソタ州に移民しました。私はスウェーデンに行ったこともないし、スウェーデン語も話せないです。しかし、小さい頃からスウェーデンの伝統と文化に結構影響をもらっています。特に、毎年、12月13日にルチア祭を守りました。赤い帯と白いドレスを着て、ろうそくの冠をかぶって、ルチアの歌を歌いながら暖かいコーヒーと手作りサフロン・ロールパンをトレーに乗せて、学校や集まりに母と一緒に人々に配りに回りました。この行事の時は、いつも「ああ、クリスマスがもう近づいている」の喜びの気持ちも伝えてくれました。

私も母親になって、やはり自分の二人の娘と一緒に、この伝統を日本の近所の人々と分かち合いました。



2011年の3月11日、14;46に発生した東日本大震災が世界中の人々を震撼させました。

その中心に座って、遊んで、食べて、聞いて、話して、一生懸命に一年生の勉強をしていたのは皆さんでした。そのような体験、私は71年間の間にしたことはないし、想像もできません。その意味で、皆さんは、私の大切に大

きな「先生」、「先輩」です。

その年の夏のある午後、友達の間瀬(長谷川)恵美先生から電話がかかってきました。「キャロル、12月13日に何か予定ありますか?」と聞かれました。正直に、「困った」と思いました。

12月13日は私にとって大切なルチア祭の日と思って、娘たちとやる予定を既に持っていましたが、「何のこと？」と聞きました。

そうすると、恵美先生は「大震災の被害を受けた岩手県の唐丹町の小、中学校の皆さんにハーブを運んで、闇の中の光の意味を分かち合っ、ルチア祭をしませんか？」と尋ねました。そう聞いて、「これこそがルチア祭の本質の本質！」と思って、「もちろん！」とたちまちに答えました！

その後、高館さんと唐丹希望基金の皆さんとの交流が始まりました。2011年から3年間連続して、皆さんと共にハーブの音色と歌声による静かな、心のための時を過ごすことが許されました。今まで唐丹町に、7回訪問したことがあります。コロナがなければ10回位になったはずですが、今のところ次のチャンスを待っています。

二つのことを特に思い出します。

2011年、初めて唐丹町に出発した早朝、母から電話がかかってきました。出発直前、父は天国に召されました。父もスウェーデン系ですから、もちろんルチア祭を子供の頃から守りました。その日、私は不思議に「唐丹町ルチア祭」に出かけたことが非常に大きい意味になりました。言葉で説明できませんが、震災の「悲しみ」が「慰め」と「大いなる存在に守られている」という気持ちになりました。そこには、唐丹町の皆さんの逞しい勇気と、私への暖かい歓迎の心がありました。



2013年、3回目の訪問の時、何か、皆さんに自分の感謝の気持ちを伝えたいと強く思いましたが、何ができるだろう??「クッキーやケーキを皆さんに作ろうかなあ?何か買いたいです、何がいいかなあ?」など問い続けました。そして、『ああ!歌を作ろう!』と決めました。そして、15分間の間に、一つの曲「I, YOU, WE」

(歌詞もメロディーも)が心に湧いてきて生まれました!この曲が今も私にとって深い、深い貴重な曲です。私から皆さんの感謝と希望の祈りです。でも、唐丹町だけではなく、世界中の繋がりにも意味があると思います。実は、この曲は私から皆さんへのプレゼントではなく、皆さんから私へのプレゼントではないかと思います!

♪ 「I, YOU, WE」 [キャロルサクハープ演奏 IYouWe 他 - YouTube](#) 2016/07/07 公開

神様の大きいなる、無条件の恵みと導きと喜びが豊かにありますようにこころから祈ります!!

Carol Sack

サク カヤロル 2022年2月18日